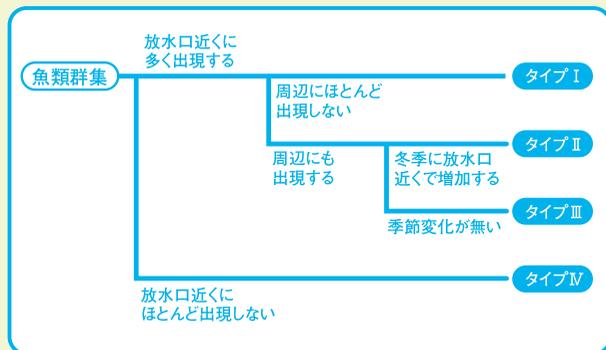


# 温排水に集まる魚(1)

発電所の放水口には多くの魚が集まることから、九州西岸の発電所の前面海域で潜水して、魚の分布の様子と温排水の拡がりとの関係を調べました。

図のように、魚の分布は4タイプに分けられました。タイプⅠは、周年にわたって放水口近くに分布します(ギンガメアジ、ハタタテダイなど)。タイプⅡとⅢは、放水口近くにも離れたところにも分布して、前者は冬季に放水口近くで多くなる傾向を示しますが(メジナ、アイゴなど)、後者では季節的な偏りはみられません(ソラスズメダイ、ホンペラなど)。タイプⅣは、放水口近くではほとんどみられず、離れたところに多く分布します(クロホシイシモチ、スズメダイなど)。



財団法人海洋生物環境研究所は、発電所の取放水等が海の環境やそこに生息する生物に与える影響を科学的に解明する中立的な調査研究機関として、農林水産省、経済産業省、環境省の共管のもと、昭和50年に設立されました。

これまで「大規模発電所の取放水が生物に及ぼす影響の解明」「取放水域の環境調和技术の開発」「原子力発電所等周辺海域の海洋放射能調査」等の調査研究を国や民間からの委託をうけて実施しております。

海の豆知識 第18号

平成16年1月 発行

発行所

財団法人 海洋生物環境研究所

事務局 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-29 帝国書院ビル5階 ☎ (03) 5210-5961  
中央研究所 〒299-5105 千葉県夷隅郡御宿町岩和田300 ☎ (0470) 68-5111  
実証試験場 〒945-0322 新潟県柏崎市荒浜4-7-17 ☎ (0257) 24-8300

海の豆知識に関するお問い合わせは、事務局までお願いします。  
<ホームページ> <http://www.kaiseiken.or.jp/>

かいせいけん

# 海の豆知識

Vol.18

??? 魚のことわざ ???



財団法人 海洋生物環境研究所

# 魚のことわざ

(その17)

## —ブリ—

海とその生物にまつわる<sup>ことわざ</sup> <sup>かくげん</sup> 諺や格言についてお話ししましょう。

今回のテーマは鰯(ブリ=スズキ目=アジ科)です。

大きさによりモジャコ、イナダ、ハマチなど異なった名前ではばれ、成魚では全長1mに達する。

小魚やイカ類などを食べる典型的な回遊魚であるため時速2~3キロの速度で移動するといわれている。

太平洋の漁場では房総半島以北で北上中の夏ブリを漁獲の主対象としているのに対して、相模湾以南では南下する冬ブリと春ブリを主に漁獲している。



1

### 「鰯起こしの荒れ」

ブリは冬の魚。その頃の日本海は荒れる。十二月になって鉛色の雲が厚く低く垂れて海と続き、雷鳴が轟く。この雷鳴を「鰯起こし」という(能登地方の言葉)。北陸地方ではサケに代わって正月にブリが登場する。

2

### 「鰯は北が吹いた後に来る」

日向宮野浦地方で、春の彼岸前後に北風が吹いた後、ブリの最漁期を迎える。そして春の彼岸まで寒ブリの扱い。しかし(図説日本民俗学全集)では、この北風は春の彼岸ではなく、冬の北風としている。こちらが正解であろうか。

3

### 「鰯みたいな鰯、鰯みたいな鰯」

嫁の里から送られて来るものは、大きなブリでもイワシのように小さく感じ、自分の娘やその嫁ぎ先に送るものは大きく見えるということ。また、娘の嫁ぎ先にブリを贈るとき、贈る方はかなり気張って大物を選んだつもりでも、貰った側ではイワシのように小さく感じる意、ともいう。さらに、嫁を貰って初めての正月には、嫁の実家にブリを贈ることを例とした。こちらは「嫁御ブリがいい」の暗号。出典が明らかでないが、ブリの贈答の習慣から推して北陸地方であろう。